

県立高校再編整備計画

平成27年10月

山口県教育委員会

目 次

1 再編整備計画の趣旨等	1
(1) 策定の趣旨	1
(2) 期間	1
(3) 進め方	1
2 再編整備の考え方	1
(1) 再編整備の必要性	1
(2) 再編整備の基本的な考え方	1
ア 特色ある学校づくりの推進	2
イ 望ましい学校規模の確保をめざした再編統合	2
ウ 全日制課程を置く分校の再編整備	2
エ 配慮事項	3
3 再編整備の方向性	3
(1) 中学校卒業生数	3
(2) 全日制課程の学科別比率	3
(3) 全日制課程	4
ア 普通科系の学科	4
イ 専門学科	4
ウ 総合学科	4
(4) 定時制・通信制課程	5
ア 定時制課程	5
イ 通信制課程	5
(5) 中高一貫教育の推進	5
(6) 新たに設置する分校	5
(7) 地域と連携した学校づくり	5
4 再編整備の推進	6
(1) 実施計画の策定	6
(2) 再編整備実施時期の検討	6
ア 中学校卒業生数の推移	6
イ これまでの入学者数の状況及び今後の入学者数の見込み	6
ウ 再編整備による特色ある学校づくり	6

平成27年度～平成30年度実施計画

1	再編整備	8
2	コミュニティ・スクールの導入	9
3	探究科（仮称）の導入	9
4	計画の進め方	9

	県立高校再編整備計画（素案）に対するパブリック・コメントの概要	11
--	---------------------------------	----

1 再編整備計画の趣旨等

(1) 策定の趣旨

県教育委員会では、平成27年3月に、国の教育改革の動向や本県高校教育の抱える課題を踏まえ、中長期的視点に立って本県高校教育の質の確保・向上を図るため、「めざすべき県立高校像」「教育活動の充実」「教育環境の充実」「特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備」などを主な内容とする「第2期県立高校将来構想」を策定したところです。

構想を具体的に推進するにあたっては、年次的・計画的に進める必要があり、構想の方向性に沿って県立高校の再編整備を円滑に進めるため本計画を策定するものです。

(2) 期間

この再編整備計画は、平成27年度から平成36年度までを計画の期間とします。

(3) 進め方

再編整備の実施計画は4年単位で策定することとし、生徒の入学状況の変化等に応じて、2年毎に見直しをしていきます。

なお、各年度の実施分については、中学生への早期の情報提供のため、原則として入学定員発表前に公表します。

H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度
第2期県立高校将来構想									
公表	県立高校再編整備計画(H27～36年度)								
公表	実施計画(H27～30年度)								
	公表	実施計画(H29～32年度)							
			公表	実施計画(H31～34年度)					
						公表	実施計画(H33～36年度)		

2 再編整備の考え方

(1) 再編整備の必要性

中学校卒業者数の減少が見込まれる中、生徒の興味・関心や学ぶ意欲、目的意識等のニーズの多様化に対応し、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、特色ある学校づくりを推進するとともに、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要です。

その際、学校規模については、学校規模別の開設科目数、配置教員数、部活動数とともに、アンケート結果等も踏まえて検討した結果、1学級あたりの生徒数を原則40人として、これまでと同様に1学年4学級から8学級を望ましい学校規模とします。

(2) 再編整備の基本的な考え方

再編整備については、中学校卒業者数の推移や中学生の志願状況、高校卒業後の進路動向、通学実態、私立高校の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情や分散型都市構造にある本県の特性も踏まえ、年次的かつ計画的に取り組みます。

ア 特色ある学校づくりの推進

中学校卒業生数の減少や生徒のニーズの多様化、地域の状況の変化等を踏まえ、再編整備に取り組む中で、次の方向で特色づくりを推進します。

〔特色ある学校づくりの方向性〕

- 生徒が主体的に学校選択をすることができるよう、各学校の個性化・多様化を図る特色づくりの推進
- 地域社会の教育力を活用した地域ぐるみの教育活動の推進
- 大学等への進学に重点を置く取組や高度な専門性をもった産業人材を育成する取組の充実など拠点的な役割をもつ高校について、分散型都市構造にある本県の特性も考慮し配置
- 選択幅の広い学習が可能な学校・学科の設置
- 生徒のニーズや地域の状況の変化等を踏まえた学校・学科の適切な配置や適正な定員設定

イ 望ましい学校規模の確保をめざした再編統合

再編統合にあたっては、1学年4～8学級の望ましい学校規模の確保をめざして、1学年3学級以下の小規模校（今後、3学級規模になる学校を含む）の再編統合を検討しますが、その際、学校の近接性や学習内容等を考慮しながら、小規模校同士だけでなく、4学級以上の学校との再編統合についても検討します。

なお、1学年3学級の中高一貫教育校の学校規模については、学校全体の学級数を考慮します。

また、1学年2学級の学校について、生徒の通学実態等から望ましい学校規模の確保をめざした近隣の学校との再編統合が困難な場合には分校化を検討し、その際の最小学校規模は1学年1学級とします。

検討の対象となる学校

- ・岩国総合 ・岩国商業 ・熊毛南 ・光丘 ・華陵 ・熊毛北
- ・南陽工業 ・小野田工業 ・田部 ・西市 ・響 ・豊北
- ※今後、3学級規模になる学校を含む

※奈古は平成28年度分校化

ウ 全日制課程を置く分校の再編整備

全日制課程を置く分校（今後、分校になる学校を含む）については、将来的に入学者が定員の二分の一を満たすことが見込まれない場合、募集停止を検討します。

検討の対象となる学校

- ・岩国坂上分校 ・岩国広瀬分校 ・徳山徳山北分校 ・徳山鹿野分校
- ・防府佐波分校 ・山口徳佐分校
- ※今後、分校になる学校を含む

エ 配慮事項

こうした再編整備の実施にあたっては、高校教育の質の確保を図る観点や地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響等を総合的に勘案しながら検討します。再編整備の対象校であっても、組織的に地域と連携した特色ある教育活動を行う学校や、学び直しや不登校等の多様な学びのニーズに対応した柔軟で弾力的な教育活動を展開する学校など、県全体の教育効果を高めることが特に期待される学校においては、当面は学校を維持することも検討します。

3 再編整備の方向性

(1) 中学校卒業生数

県内の中学校卒業生の直近のピークは、昭和63年3月の約26,500人であり、それ以降は急激な減少に転じ、平成27年3月には半分以上の約13,000人まで減少が進んでいます。今後も中学校卒業生数の減少傾向は続くものと見込まれ、平成36年3月には約11,600人となり、それに伴い、公立高等学校の募集定員、募集学級数も削減することとなります。

このような生徒減少が続く中、本県では、質の高い高校教育を推進するため、学校・学科の再編整備等に積極的に取り組んできたところであり、全日制課程の1学年3学級以下の本校については、平成17年度は34校で、本校66校の半数を超えていましたが、平成27年度では本校52校中16校という状況になっています。

また、全日制課程第1学年の1校あたりの募集学級数の平均については、平成17年度では、全国5.50に対して山口県は3.71と全国でも最小の規模であったものが、平成27年度では、全国5.61に対して山口県は4.14まで規模が拡大したものの、それでもなお、全国で5番目に小さい規模となっています。

こうした現状にあって、今後とも、中学校卒業生数の継続的な減少による学校の小規模化が見込まれる中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要です。

中学校卒業生数の推移 (人)

	平成27年3月	平成31年3月	平成36年3月	平成41年3月
中学校卒業生数	12,952	12,109	11,609	10,380
平成27年3月比	—	-843	-1,343	-2,572

(2) 全日制課程の学科別比率

平成27年度の募集定員による全日制課程の学科別比率は、普通科系（理数科、英語科を含む）が56.6%、専門学科が35.4%、総合学科が8.0%となっています。

平成26年7月に実施したアンケート調査によると、中学生の学科別の進路希望は、普通科希望が2年生71.2%、3年生63.0%、専門学科希望が2年生25.7%、3年生31.6%、総合学科希望が2年生3.1%、3年生5.3%となっています。

また、高校卒業後の進路では、普通科においては四年制大学等へ進学する生徒が近年増加傾向にあります。専門学科においては就職する生徒が増加傾向の学科も見られます。

このような中学生の進路希望や高校卒業後の進路状況、生徒のニーズや社会経済動向等を踏まえ、生徒の志願状況を見ながら、募集定員の比率について検討を進めます。

平成27年度全日課程の募集定員の学科別比率

	普通科系	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	その他	総合学科
募集定員	4,805	385	1,420	940	60	120	40	40	680
学科別比率	56.6%	4.5%	16.7%	11.1%	0.7%	1.4%	0.5%	0.5%	8.0%
		35.4%							

※中等教育学校を含む。

(3) 全日課程

今後も、中学校卒業生数の継続的な減少が見込まれる中、選択幅の広い学習が可能な学校・学科を設置するなど、高校教育の質の確保・向上を図るため、一定の学校規模の確保をめざした再編整備に取り組みます。

その際、各学科の配置やその学級数等については、生徒のニーズ、学科の特性等に応じた高校卒業後の進路状況、地域の産業構造や地域バランス等を踏まえながら検討します。

ア 普通科系の学科

生徒の多様な進路希望や能力・適性、興味・関心等に対応し、教科・科目の選択幅などが拡大できるよう、1学年3学級以下の小規模校については、普通科同士や他学科との再編統合により学校規模の拡大を進めます。

現在、普通科系の学科（普通科、普通科コース、理数科、英語科）の募集学級数は、121学級（本校31校・分校6校）であり、今後、中学校卒業生数が減少する中、生徒のニーズや志願状況、高校卒業後の進路状況等を踏まえるとともに、各学校の志願状況を見ながら、募集定員の比率について検討します。

また、大学等への進学に重点を置く取組を拠点となって進める高校について、地域バランスを考慮した配置を検討するとともに、理数科、英語科を含め普通科の魅力づくりを進める中で、関係機関等と連携しながら、知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視する新しい学科「探究科（仮称）」への改編も検討します。

イ 専門学科

産業界で求められている専門的知識・技能の高度化に対応し、本県産業の次代を担う各専門分野のスペシャリストを育成するとともに、生徒や地域の実態・ニーズ等に対応した選択幅の広い学習や活力ある教育活動の展開が可能となるよう、再編統合による学校規模の拡大や学科改編に取り組みます。

その際、学科ごとに専門性をリードする拠点的な役割をもつ学校の地域バランスを踏まえた適切な配置や、実験・実習設備等の計画的な整備について検討を進めるとともに、地元産業界や他の専門学科等と連携した実践的な教育を一層推進します。

現在、専門学科（理数科、英語科を除く）の募集学級数は、81学級（本校26校）であり、今後、生徒のニーズや高校卒業後の進路状況、社会経済動向等を踏まえながら、募集定員の比率について検討します。

ウ 総合学科

生涯にわたって学習に取り組む意欲・態度や職業選択に必要な能力・態度の育成を行うなど、生徒の多様なニーズに対応した特色ある教育活動が求められてお

り、生徒の実態を踏まえた教育課程となるよう学校設定科目や系列の見直しを図るとともに、進学指導を重視した教育活動を充実させるなど、更なる魅力づくりを進めます。

また、生徒の多様な進路希望等に対応した幅広い選択科目の設定ができるよう、一定の学科規模の確保をめざした異なる学科との再編統合に取り組みます。

現在、総合学科の募集学級数は、18学級（本校5校）であり、今後、生徒のニーズや志願状況等を踏まえながら、適正な募集定員の比率について検討します。

（４）定時制・通信制課程

定時制・通信制課程は、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、不登校経験者や全日制課程からの転入学者、中途退学者など、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒が学ぶ場となっており、こうした多様な学びのニーズに応える学校として、3年修業制や単位制の拡充など、より柔軟な教育システムの構築を進めます。

ア 定時制課程

現在、夜間部13校、昼夜間2部制を1校設置していますが、生徒の多様な学びのニーズに対応し、生徒が自分の生活時間に合わせて学ぶことを可能とする新しいタイプの多部制定時制課程の設置や、活力ある教育活動が展開できるよう夜間定時制課程の再編統合に取り組みます。

イ 通信制課程

現在、山口高校に設置していますが、多部制の定時制課程を置く高校に併置する方向で検討するとともに、平日スクーリングの拡充や遠隔授業の活用等による教育活動の充実を図ります。

（５）中高一貫教育の推進

中高一貫教育については、現在、中等教育学校1校、併設型中高一貫教育校1校、連携型中高一貫教育校1校において実施していますが、生徒の多様な進路希望等に的確に対応した教育課程の一層の充実を図るとともに、児童生徒や保護者・地域のニーズ等を考慮しながら、適正な定員配置や進学指導に重点を置いた中高一貫教育校の設置などを検討します。

（６）新たに設置する分校

再編整備を進める中で新たに設置する分校については、これまでの歴史と伝統を踏まえ、地域や生徒のニーズに対応した特色ある教育活動を進めるとともに、本校と分校の間で教員の交流を積極的に行うことにより、各教員の専門性を生かした教育を展開し、生徒の学習意欲の高揚や学習機会の拡大を図るなど、教育活動の充実に取り組みます。

なお、新たに設置する分校の本校は、学科の類似性や学校の近似性等を踏まえて検討します。

（７）地域と連携した学校づくり

地域と連携し、地域から信頼される学校づくりを一層推進するため、保護者や地域の声を学校運営に反映させるコミュニティ・スクールを高校へ導入します。

その際、職業や経験を通して培った専門的な知識や技術をもった地域の人材など、地域の教育力を積極的に活用しながら、学校・家庭・地域が一体となって、教育活動

の多様化とその質の向上に取り組みます。

4 再編整備の推進

(1) 実施計画の策定

中学校卒業生数の減少を踏まえた募集定員及び各学科の学級数の設定や各学科の再編整備の方向性、学校選択幅の拡大、現有施設・設備の活用等を総合的に勘案して実施計画を策定し、再編整備を推進します。

(2) 再編整備実施時期の検討

実施時期については、地域毎の中学校卒業生数の推移、これまでの各高校への入学状況及び今後の入学者数の見込みを踏まえるとともに、再編整備による特色ある学校づくりの推進などの観点から総合的に検討します。

ア 中学校卒業生数の推移

再編整備計画の期間である平成27年度から平成36年度までの中学校卒業生数の見込みを踏まえ、生徒減少の著しい地域から、順次、再編整備を進めます。

イ これまでの入学者数の状況及び今後の入学者数の見込み

各高校へのこれまでの入学者数の状況において、定員割れの状況が継続している高校及びこれからの中学校卒業見込み者数から入学見込み者数を推計し、今後、入学者数の減少が見込まれる高校から、順次、再編整備を進めます。

ウ 再編整備による特色ある学校づくり

地域ぐるみの教育活動の展開など、再編整備による特色ある学校づくりを検討する条件が整っている高校の再編整備から、順次、進めます。

平成27年度～平成30年度実施計画

平成27年度～平成30年度実施計画

本計画は、再編整備による特色ある学校づくりの推進、これまでの各高校への入学者数の状況及び今後の入学者数の見込み、さらに、中学校卒業者数の減少状況などの観点から、各学校の再編整備実施時期を検討し、策定しました。

1 再編整備

(1) 全日制課程

対象校	再編整備	内 容
響高校 豊北高校	再編統合	<ul style="list-style-type: none"> ○ 響高校と豊北高校を再編統合して、新高校を設置する方向で検討します。 ○ 活力ある教育活動の展開や生徒同士が切磋琢磨する環境づくりを進めるとともに、地域と連携した学校づくりなど、特色ある学校づくりを推進します。

(2) 定時制課程

多部制の定時制課程を置く高校の設置

対象地域	再編整備	内 容
県 央 部	多部制の設置に向けた準備	○ 新山口駅周辺に午前部、午後部、夜間部を併せもつ3部制の多部制の定時制高校を設置する方向で検討を進め、その設置に向けた準備に取り組みます。
県 西 部	多部制の設置に向けた準備	○ 下関中央工業高校跡地に午後部と夜間部を併せもつ2部制の多部制の定時制高校を設置する方向で検討を進め、その設置に向けた準備に取り組みます。

※ 施設整備等を行う必要があることから、多部制の設置は平成31年度以降となる見込み

※ 夜間定時制課程の再編統合については、引き続き検討

(3) 通信制課程

より柔軟な教育システムの構築を図るため、現在ある通信制課程を県央部の多部制の定時制課程を置く高校に併置する方向で検討を進めます。

2 コミュニティ・スクールの導入

対象校	内容
周防大島高校	○ 地域と連携し、地域から信頼される学校づくりを一層推進するため、保護者や地域の声を学校運営に反映させるコミュニティ・スクールに指定する方向で検討します。
美祢青嶺高校	
大津緑洋高校	

3 探究科（仮称）の導入

対象校	内容
宇部高校	○ 生徒や保護者の大学等への進学ニーズを踏まえ、進路希望の実現につながる確かな学力を育成するため、探究科（仮称）を導入する方向で検討します。
下関西高校	

4 計画の進め方

- (1) 計画の推進にあたっては、今後、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりやその実施時期等について検討して、これに取り組みます。
- (2) 各年度の実施分については、中学生に早期に情報提供する必要があることから、原則として当該年度の募集定員の発表前に公表します。
その際、再編整備実施の時期や学科構成などについて公表します。

【参考】 平成24年度～平成26年度実施計画による再編整備（平成28年4月実施）

- 下関中央工業高校と下関工業高校の再編統合による新高校の開校
- 奈古高校の分校化に伴う新分校の開校
- 全日制普通科の通学区域の全県化

県立高校再編整備計画（素案）に対する パブリック・コメントの概要

県立高校再編整備計画（素案）に対するパブリック・コメントの概要

1 パブリック・コメントの実施状況

(1) 募集期間

平成27年7月22日（水）から平成27年8月21日（金）まで

(2) 公表方法等

県のホームページに掲載するとともに、県庁情報公開センター、各地方県民相談室、山口県税事務所防府分室及び各県立高等学校で閲覧できるようにしました。

(3) 意見提出方法等

郵送、FAX、電子メールにより意見を募集しました。

2 意見の件数

22人、78件

(内訳)

項 目	件数
県立高校再編整備計画（素案）	
県立高校再編整備計画（平成27年度～平成36年度）	31
1 再編整備の趣旨等	(1)
2 再編整備の考え方	(16)
3 再編整備の方向性	(13)
4 再編整備の推進	(1)
平成27年度～平成30年度実施計画	30
1 再編整備	(22)
2 コミュニティ・スクールの導入	(2)
3 探究科（仮称）の導入	(5)
4 計画の進め方	(1)
小 計	61
その他	
その他	(17)
小 計	17
合 計	78

()は内数

3 提出された意見及びこれに対する考え方

次ページに掲載

県立高校再編整備計画の策定に係るパブリック・コメントの概要

□ 県立高校再編整備計画（素案）の内容に係る意見（61件）

意見の内容	意見に対する県の考え方
1 再編整備計画の趣旨等（1件）	
(2) 期間	
<p>○ 再編整備計画の計画期間の中学校卒業生数の減少は1,343人であるが、次の5年間（平成37年度～平成41年度）には、1,229人が減少し、直近の10年間の半分の期間でほぼ同等の減少が予想されている。したがって、計画期間を15年間とし、将来を見越した計画とすべきではないか。</p>	<p>○ 平成27年3月に策定した「第2期県立高校将来構想」は、15年先を見通した上で、今後10年間の高校改革の指針を示したものです。本計画は、1ページの「策定の趣旨」の項に記述しているように、その将来構想の方向性に沿って県立高校の再編整備を円滑に進めるために策定するものであり、計画の期間を10年間としています。</p>
2 再編整備の考え方（16件）	
(1) 再編整備の必要性	
<p>○ 学校の統廃合には賛成である。学校規模が小さくなって、やりたい部活動がない学校には、子どもたちは行かないと思う。</p>	<p>○ 1ページの「再編整備の必要性」の項に記述しているように、中学校卒業生数の減少が見込まれる中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るため、特色ある学校づくりを推進するとともに、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備に努めます。</p>
<p>○ 少子高齢化が進む中で、高校の小規模化が懸念されるが、これからの社会を担う若者の教育にあたっては、多様な人格・価値観に触れることが大切であり、1学年4学級以上の学校規模を確保することが必要であると思う。学校規模を確保することで、進路希望や興味に応じて学べる科目の開講が可能となり、より多彩な部活動の確保ができるようにしてほしい。</p>	<p>○ 望ましい学校規模を確保することにより、生徒数が多くなり、学校行事や生徒会活動、部活動等が活性化するなどの教育的効果が期待できます。</p>
<p>○ 中学校卒業生数が減少し、高校の数が少なくなっていくのは、致し方ない。部活動や学校行事などを考えると、規模の小さな学校として残していくより、ある程度の規模の学校として統廃合した方が、子どもたちの学習や活動の環境としてはいいと思う。</p>	<p>○ 再編整備にあたっては、何よりもまず、主役である生徒に質の高い高校教育を提供するという視点に立つことが重要であると考えています。その実施にあたっては、高校教育の質の向上を図る観点や地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響等を総合的に勘案しながら検討します。</p>
<p>○ 子どもの数が減少しており再編整備についてはやむをえないと思う。</p>	
<p>○ 再編整備にあたっては、同窓生や地域の方々の感情にも配慮しつつ、何よりもまず、これからの若者のために何が最善かを最重要視して検討すべきである。</p>	
<p>○ 人口減少が進んでいるからといって、高校を統合するのはあまりに短絡的すぎる。高校が減ることは、地域の衰退にもつながる。統廃合しなくても済むような行政を求める。</p>	
(2) 再編整備の基本的な考え方	
<p>○ 山口県に魅力のある高校がたくさんできることを期待している。</p>	<p>○ 2ページの「特色ある学校づくりの推進」の項に記述しているように、再編整備に取り組む中で、生徒が主体的に学校選択をすることができるよう、各学校の個性化・多様化を図る特色づくりを推進します。</p>
<p>○ 子どもたちがいきいきと学習や活動ができるような高校ができるような再編整備を望んでいる。</p>	

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>○ 学級数や生徒数を最大の基準とした学校統廃合は納得できない。特色ある学校運営は、地域との連携あってこそ可能になるものであり、「地域と連携した特色ある学校づくり」と統廃合推進は矛盾する。</p>	<p>○ 全ての県立高校が、学校がもつ教育力の地域への還元と、大学や企業、人材等の地域がもつ教育力の積極的な活用など、学校と地域との双方向による連携・協力を行う学校づくりを推進することとしています。</p> <p>なお、1ページの「再編整備の基本的な考え方」の項に記述しているように、再編整備については、地域における高校の実情なども踏まえて検討します。</p>
<p>○ 1学級あたりの生徒数も段階的に減らしていくことや、学級数の原則（4～8学級）について再考することが必要ではある。</p>	<p>○ 望ましい学校規模については、学校規模別の開設科目数、配置教員数、部活動数とともに、アンケート結果等も踏まえて検討した結果、1学年4～8学級としています。</p> <p>望ましい学校規模を確保することにより、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開などの教育的効果が期待できます。</p>
<p>○ 望ましい規模の最小を4学級とする基本方針を変更するか、その方針を堅持するならば、厚狭地区で普通科を設置する学校を含んだ再編整備を検討することが必要である。</p>	<p>○ 2ページの「望ましい学校規模の確保をめざした再編統合」の項に記述しているように、再編統合にあたっては、1学年4～8学級の望ましい学校規模の確保をめざして、1学年3学級以下の小規模校（今後、3学級規模になる学校を含む）の再編統合を検討することとしています。</p>
<p>○ 補欠合格や二次募集を実施されいながら定員割れを起こしている高校が整備計画の検討対象に入っていない。</p>	<p>○ その際、学校の近接性や学習内容等を考慮しながら、小規模校同士だけでなく、4学級以上の学校との再編統合についても検討します。</p>
<p>○ 県内の私立中学高等学校の存在を考えた様子が見られない計画であると感じた。公立高校のみが高校であると県民が感じる「再編整備計画」はいかがなものか。</p>	<p>○ 1ページの「再編整備の基本的な考え方」の項に記述しているように、再編整備については、中学校卒業生数の推移や中学生の志願状況、高校卒業後の進路動向、通学実態、私立学校の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情等も踏まえて取り組むこととしています。</p> <p>県教育委員会では、県立高校と私立高校が、それぞれの特性を踏まえ、連携しながら公教育の充実に取り組む中で、より質の高い高校教育の推進に努めます。</p>
<p>○ 「エ 配慮事項」に重要なことが書かれており、高く評価できるが、これに人的配置や予算の重点化はあるのかわからない。</p>	<p>○ 再編整備にあたっては、3ページの「配慮事項」の項に記述しているように、地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響などを、総合的に勘案しながら検討するとともに、再編整備の対象校であっても、県全体の教育効果を高めることが特に期待される学校においては、当面は学校を維持することも検討します。</p>
<p>○ 「エ 配慮事項」に掲載されているよう、地理的条件、交通事情による等、地域性を考慮して再編整備について特に検討をお願いしたい。</p>	<p>○ このような教育活動の推進にあたっては、必要な教職員の配置等にも努めます。</p>
<p>○ 検討の対象となる分校6校を提示しているが、何を根拠にこの6校を決定したのか。</p>	<p>○ 現在、県内には全日制課程を置く分校が6校ありますが、その全ての分校を検討の対象としています。</p>
<p>3 再編整備の方向性（13件）</p>	
<p>（2）全日制課程の学科別比率</p>	
<p>○ 検討データの数値に国立高専と私学の募集定員が勘案されていない。（2件）</p>	<p>○ 1ページの「再編整備の基本的な考え方」の項に記述しているように、再編整備については、中学校卒業生数の推移や中学生の志願状況、高校卒業後の進路動向、通学実態、私立学校の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情等も踏まえて取り組むこととしています。</p>
<p>○ 「再編整備の方向性」の検討に当たり、私立高校等の状況が勘案されているとは言い難い。私立高校や国立高専等の配置状況、学科、募集定員などを十分に勘案すべきである。（2件）</p>	<p>○ 県教育委員会では、県立高校と私立高校が、それぞれの特性を踏まえ、連携しながら公教育の充実に取り組む中で、より質の高い高校教育の推進に努めます。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
(3) 全日制課程	
<p>○ 統廃合にあたっては、若者の県外流出を防ぐためにも実業系の学校は残していった方がよい。公立高校では地元で働く人材の育成に力を入れてほしい。</p>	<p>○ 県外流出への対応については、特色ある学校づくりを進め、より質の高い教育を提供することが重要であると考えています。 このため、4ページの「専門学科」の項に記述しているように、生徒や地域の実態・ニーズ等に対応した選択幅の広い学習や活力ある教育活動の展開が可能となるよう、再編統合による学校規模の拡大や学科改編に取り組みます。</p>
(4) 定時制・通信制課程	
<p>○ 定時制高校は、友達も少なく生徒はかわいそうだと思う。少しでも多くの生徒が集まる学校に生まれ変わればよいと思う。</p>	<p>○ 夜間定時制においては、大幅な定員割れが続いていることから、活力ある教育活動が展開できるよう、夜間定時制課程の再編統合について引き続き検討します。</p>
<p>○ 多様な学びのニーズに応えることは、定時制課程の重要な課題である。しかし、「働きながら学ぶ」ことが定時制・通信制の基本であることに変わりはない。</p>	<p>○ 定時制・通信制課程は、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒が学ぶ場となっており、3年修業制や単位制の拡充など、多様な学びのニーズに応える教育システムの構築が重要であると考えており、その趣旨を、5ページの「定時制・通信制課程」の項で記述しています。</p>
<p>○ 「昼夜間部2部制の拡大」は「生徒が自分の生活時間に合わせて学ぶことを可能とする」であろうし、選択肢は広がる。しかし、午前部にはどのようなニーズがあるのか。</p>	<p>○ 定時制・通信制課程は、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、不登校経験者や全日制からの転入学者、中途退学者など様々な入学動機をもつ生徒が学ぶ場となっています。</p>
<p>○ 午前部に登校できる生徒は、できれば全日制課程に入学できるよう配慮することが大切である。「柔軟な教育システムの構築」に言及する場合、高校再編とは別の場において、生徒の学習に関する柔軟な対応などを、総合的な視点で検討していく必要がある。</p>	<p>○ こうした生徒の多様なニーズに対応し、生徒が自分の生活時間帯に合わせて学ぶことを可能とする新しいタイプの多部制の定時制課程を設置する方向で検討を進めます。</p>
<p>○ 修業年数については、社会性を身につけ、就業に関しての意識を高めるには4年以上が妥当ではないか。</p>	<p>○ 定時制・通信制課程については、多様な学びのニーズに対応するため、3年での卒業も可能となる、より柔軟な教育システムの構築を進めます。</p>
(5) 中高一貫教育の推進	
<p>○ 県内には既に私立の中高一貫教育校が7校設置され、それぞれの学校で成果を挙げているところであり、県立の中高一貫教育校の設置の具体的検討に当たっては、私立中高一貫教育校の配置状況等を十分勘案すべきである。</p>	<p>○ 1ページの「再編整備の基本的な考え方」の項に記述しているように、再編整備については、中学校卒業生数の推移や中学生の志願状況、高校卒業後の進路動向、通学実態、私立学校の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情等も踏まえて取り組むこととしています。</p>
<p>○ 公立中高一貫教育を多額の公費を使い安易に拡充することは私立の中高一貫教育を潰すことになり、山口県全体の教育振興にとって大きなマイナスである。</p>	<p>○ 中高一貫教育については、児童生徒や保護者・地域のニーズ等を考慮しながら、適正な定員配置や進学指導に重点を置いた中高一貫教育校の設置などを検討します。</p>
(7) 地域と連携した学校づくり	
<p>○ 教育は地域の発展とともにあるものだと考えられるので、「第2期県立高校将来構想」の「学校・家庭・地域が一体となった『地域教育力日本一』の取組」に賛同しており、これを重視してほしい。</p>	<p>○ 地域と連携し、地域から信頼される学校づくりを一層推進することは重要であると考えており、地域の教育力を活用しながら、学校・家庭・地域が一体となって、教育活動の多様化とその質の向上に取り組みます。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
4 再編整備の推進（1件）	
(2) 再編整備実施時期の検討	
<p>○ 中学校卒業生数や各高校への入学生数の見込みなどを踏まえて、計画的に再編整備を進めることとされていることは評価できるが、既に再編統合の検討対象となっている学校の再編整備の早期取組とともに、私立学校等の配置状況を勘案し、定員が過剰と見込まれる地域での再編統合についても検討すべきである。</p>	<p>○ 子どもたちにできるだけ早く、より質の高い高校教育を提供することが大切と考えており、実施時期については、地域毎の中学校卒業生数の推移や生徒の入学状況の変化等を踏まえるとともに、再編整備による特色ある学校づくりの推進などの観点から総合的に検討します。</p>
平成27年度～平成30年度実施計画（素案）	
1 再編整備（22件）	
(1) 全日制課程	
<p>○ 響高校と豊北高校が統合されるそうだが、生徒数がやはり少ないのだろう。統合は仕方がないと思う。</p> <p>○ 自分の卒業した学校がなくなることは、正直嬉しくは思わないが、旧豊北町の現状を見たときには、仕様がなにかと思う。</p> <p>○ 豊北高校と響高校の再編統合案について、少子高齢化の進展する状況下、再編統合の方向性そのものは、教育力の確保という面からやむを得ぬものと考ええる。</p> <p>○ 豊北の子どもたちは学校がなくなると行く場所がない。子どもたちの通学のことを考えて検討を進めてほしい。</p> <p>○ 響高校と豊北高校の再編統合については、県を挙げて多方面からの慎重な審議が必要である。地域振興や地域存続などの要素も加味した統合案を作成されるようお願いする。</p> <p>○ 豊北高校と響高校の再編統合に当たっては、教育県、山口県の未来展望が近い将来開けるように基本方針は踏まえつつも、地域特性を十分考慮した上で、幅広い視点から判断してほしい。</p> <p>○ 豊北町から高校が消滅する可能性がある本案に反対する。ふるさとから高校をなくすことは、住むところではないとレッテルを貼るようなものである。過疎化に悩む地域においては、高校を残すことが必要である。</p> <p>○ 豊北高校は、今年70周年を迎え約1万人の卒業生が多方面で活躍しており、北高を生かし存続させるべきである。響高校は、旧市よりの生徒が過半数と聞き、本来旧市内の定員を増加し対応するか私学進学が筋と思う。</p> <p>○ 統合が避けられない現実を前に、70年北高生を見守った滝部の町に新高校を設置すべきである。</p> <p>○ 新豊北・響統合高校が、豊北高校の立地する豊北町、とりわけ滝部地区に存在することが肝要である。</p> <p>○ 豊北高校と響高校の再編統合による新校名は下関北高等学校が長年の愛称もあり望ましい。</p> <p>○ 豊北高校と響高校の再編統合後の新高校の名称は「豊浦北高校」、学科は普通科に観光交流科を加え、定員は普通科2学級60名、観光交流科1学級15名とし、寄宿舎を設置してほしい。</p> <p>○ 空き公共施設を利用した寄宿舎やホームステイによる受け入れ態勢を整備することも生徒確保の手法ではないか。</p>	<p>○ 1ページの「再編整備の必要性」の項に記述しているように、中学校卒業生数の減少が見込まれる中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るため、特色ある学校づくりを推進するとともに、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要であると考えています。</p> <p>○ 少子化の進行による学校の小規模化が進む中、何よりもまず、次代を担う生徒たちに、より質の高い高校教育を提供するためには、望ましい学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要であると考えています。</p> <p>再編整備にあたっては、地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響などを、総合的に勘案しながら検討します。</p> <p>響高校と豊北高校については、再編統合して、新高校を設置する方向で検討し、地域と連携した学校づくりを一層推進するなど、特色ある学校づくりに努めます。</p> <p>○ 再編整備にあたっては、地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響などを、総合的に勘案しながら検討します。</p> <p>また、計画の推進にあたっては、9ページの「計画の進め方」の項に記述しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりや実施時期について検討します。</p> <p>○ 計画の推進にあたっては、9ページの「計画の進め方」の項に記述しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりや実施時期について検討します。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>○ かつて、JRの便がいいときは、豊浦町から豊北高校に結構優秀な生徒が過半数以上来ていた。県が本気になり通学の便を考え改善する必要がある。</p> <p>○ 豊北地域では、交通基盤が弱体である。JRの増便または上りの小串止まりを滝部まで延長するようにすることも生徒確保の一法ではないか。</p> <p>○ 再編整備計画の方向性で「中高一貫教育の推進」「新たに設置する分校」などを掲げているのに、実施計画に掲げられた「豊北高校と響高校」の場合には適用しない理由は何か。</p> <p>○ この2校の再編統合を提示した具体的な理由が提示されていない。</p> <p>○ 統合するとなると、それぞれの高校の歴史と特徴が失われ、教育機関がなくなった地域においては、地域の重要な核の一つが失われる。</p>	<p>○ 県教育委員会では、遠距離通学をする生徒のために、これまでも毎年、公共交通機関や地元市町に対して、各地域や学校の状況に応じ運賃・ダイヤ・路線等に関する働きかけを行っており、今後も、公共交通機関や地元市町に働きかけていきます。</p> <p>○ 8ページに記述しているように、実施計画は再編整備による特色ある学校づくりの推進、これまでの各高校への入学者数の状況及び今後の入学者数の見込み、さらに、中学校卒業生数の減少状況などの観点から検討したものです。今後、中学校卒業生数の減少が見込まれる中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るため、特色ある学校づくりを推進するとともに、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要であると考えています。</p> <p>○ 学校・学科の再編整備に取り組む中で、各学校の歴史や伝統、地域の特性等を踏まえた特色ある学校づくりに努めます。</p>
<p>(2) 定時制課程 (3) 通信制課程</p>	
<p>○ 新山口駅周辺に計画されている多部制の定時制高校に期待している。福岡県の博多青松高校などがよいモデルであり、その取組を参考にするとよいと思う。</p> <p>○ 県中部に定時制を設置する際に、通学に便利な新山口駅周辺を選んだのは適切である。駅周辺に午後部、夜間部の2部制定時制高校を新設し、山口高校と防府商工の定時制・通信制をそこに統廃合して「山口高校定時制・通信制校舎」とするのがよい。</p> <p>○ 新山口駅周辺への多部制の定時制高校の設置は、多額の公費が必要のない既存施設の活用で進めることが望まれる。</p> <p>○ 県東部にしかない2部制の定時制課程を県中部、県西部に置くことは必要であるが、3部制の定時制を設置するメリットはどこにあるのか。「午前部」の必要性が理解できない。午前部導入には再検討が必要ではないか。</p>	<p>○ 定時制課程は、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒が学ぶ場となっており、こうした多様な学びのニーズに対応し、生徒が自分の生活時間に合わせて学ぶことを可能とする3部制の多部制の定時制高校を新山口駅周辺に設置する方向で検討を進め、その設置に向けた準備に取り組めます。</p> <p>また、具体的な学校づくりについては、他県の取組も参考にしながら検討します。</p> <p>○ 計画の推進にあたっては、9ページの「計画の進め方」の項に記述しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりや実施時期について検討します。</p> <p>○ 定時制・通信制課程は、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、不登校経験者や全日制からの転入生、中途退学者など様々な入学動機をもつ生徒が学ぶ場となっています。</p> <p>こうした生徒の多様なニーズに対応し、生徒が自分の生活時間帯に合わせて学ぶことを可能とする新しいタイプの多部制の定時制課程を設置する方向で検討を進めます。</p>
<p>2 コミュニティ・スクールの導入 (2件)</p>	
<p>○ ここに校名の挙がっている3校においては、募集段階で募集定員を大きく下回る応募者しかない。この状況でコミュニティ・スクールに指定していくことは、この3校の再編計画からの除外までも示しているとも考えられる。再編を終えたので除外したことが理由であるならば、分校化も視野に入れて、再編計画の中に入れるべきである。</p>	<p>○ 対象の3校は、望ましい学校規模の学校または1学年3学級の中高一貫教育校であり、再編統合の検討対象校としていません。</p> <p>今後、地域と連携し、地域から信頼される学校づくりを一層推進するため、保護者や地域の声を学校運営に反映させるコミュニティ・スクールに指定する方向で検討し、地域の教育力を積極的に活用しながら、学校・家庭・地域が一体となって、教育活動の多様化とその質の向上に取り組めます。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 当該学校を提示した具体的な理由が明示されていない。	○ 実施計画は、地域における高校の実情や再編整備による特色ある学校づくりの推進等の観点から検討したものです。 対象の3校は、これまでも地域と連携した特色ある教育活動を組織的に行っており、コミュニティ・スクールの導入により、地域から信頼される学校づくりを一層推進したいと考えています。
3 探究科（仮称）の導入（5件）	
<p>○ 知識を活用し、諸課題を解決していくプロセスを学ぶ「探究科」の設置は、グローバル化の進む今日、必要な取組と思う。ただし、その活動を進めるための施設・環境の整備や教職員の研修等に予算を十分に充てるべきだと思う。</p> <p>○ 探究科の導入は、なぜ宇部高と下関西高だけなのか。なぜ、県の西側に集中しているのか。</p> <p>○ 当該各校を提示した具体的な理由が明示されていない。</p> <p>○ 宇部高校や下関西高校への探究科の導入の具体的な検討にあたっては、多額な公費投入により人的・物的に私立学校との適正な競争が阻害されないように配慮すべきである。（2件）</p>	<p>○ 実施計画は、地域における高校の実情や再編整備による特色ある学校づくりの推進等の観点から検討したものであり、今後、地域バランスも考慮しながら、探究科（仮称）導入校の拡充について検討します。</p> <p>計画の推進にあたっては、9ページの「計画の進め方」の項に記述しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりや実施時期について検討します。</p> <p>○ 県教育委員会では、県立高校と私立高校が、それぞれの特性を踏まえ、連携しながら公教育の充実に取り組む中で、より質の高い高校教育の推進に努めます。</p>
4 計画の進め方（1件）	
○ 実施計画の素案については、早目に内容の決定をし、公表をお願いしたい。	○ 計画の推進にあたっては、9ページの「計画の進め方」の項に記述しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりや実施時期について検討します。

□ その他の意見（１７件）

これらの他に、次のような御意見もありましたので、今後の再編整備の推進等の参考にさせていただきます。

その他の意見（１７件）
○ 柳井地区においては中学校卒業生数以上の公立高校定員配置となっており、結果的に毎年柳井地区の多くの公立高校で２次募集が行われている。公立高校の定員配置の適正化を行い、２次募集が起こらないような形作りをお願いしたい。（４件）
○ 県財政難の状況を考えると、高校の統廃合は敢行すべきと思う。柳井地区の高校の統廃合に優先的に取り組んでほしい。
○ 今回の方向性では全く触れられていないが、「山口県子どもの貧困対策推進計画」では、「夜間中学の設置促進」や「貧困家庭の親の学び直し」について記載があり、定時制・通信制高校はこれらの施策も視野に入れ、再編統合の検討が必要ではないか。
○ 生徒が夢を育み志をもって学ぶ学校が今の日本に大切なことは判り切っている。「本音と建前を使い分けることを教えることしかできない現代の日本の教育」は悲しいものである。
○ 学級数を主体とする再編整備の目的は教育費（教員）削減に主眼を置いているとしか考えにくい。高校教育にかかわる負担の増減は、どのように想定されるか。
○ 素案作成前に各校関係者への聞き取りを実施したのか。実施していないのであれば、その理由は何か。
○ 地域説明会に来場された参加者数が極めて少なかったが、これまでどのような周知活動を行ったのか。在校生の保護者や同窓会関係者への案内だけでは不十分である。もっと地元関係者からの意見も聴取すべく広範囲の関係者への説明会開催の周知が必要ではないか。
○ 地域説明会の開催をほとんどの住民は知らなかった。住民の声を積極的に取り入れるための公聴会を重ねて開催してほしい。
○ 今回の意見募集の広報・記事の扱いが実際どの程度あったのか、具体的に提示してほしい。また、特に影響のある地域に別途広報したのか。
○ 意見募集について、期間の延長または再実施を求める。
○ 県民からの意見募集のほかに、専門家・関係者からの意見聞き取り等の実施をお願いする。
○ 県民として判断するために必要なデータ、記載に乏しいと感じる。
○ 山陰部の高校に対する昼間部定時制課程の新設も課題である。
○ 可能であれば、元号は西暦を併記してほしい。